PRESS RELEASE

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

平成 30 年 7 月 26 日

公開セミナー『「子どもをまもる」産科スタッフ・保健師のためのワクチンの知識』開催

2013 年、日本国内で主に 20 代から 40 代を中心に風疹の大流行が起こりました。「先進国で風疹の流行が起こるのは日本だけ」と言われ、当時アメリカでは妊婦の日本への渡航自粛勧告も行われるなど社会問題となりました。この流行の主な原因は、ワクチン接種をめぐる行政の度重なる方向転換により、風疹ワクチン接種の空白世代が生まれたためだと考えられています。この流行の結果、妊婦の風疹感染が拡大し、生まれてくる赤ちゃんの目や耳、心臓などに障害が出る「先天性風疹症候群（CRS)」の患者が増加しました。

岡山大学大学院保健学研究科では、岡山県や岡山県産婦人科医会と協力して、ワクチン接種の重要性および先天性風疹症候群への正しい知識の啓発をテーマとした公開セミナーを毎年開催しています。産科スタッフや保健師のみではなく、これから子どもを育てる人々全てに知ってほしいワクチンの話をお聞きいただけます。また、前々回の大流行の時に生まれた先天性風疹症候群の子どもたちを育てる、家族会の方々にもお話をしていただきます。

入場は無料で、事前申込も不要です。どなたでも奮ってご参加ください。

＜開催概要＞

1. 名　　称　　公開セミナー『「子どもをまもる」産科スタッフ・保健師のためのワクチンの知識』
2. 日　　時　　2018 年 8 月 16 日（木）13:00～16:30（開場　12:30）
3. 場　　所　　岡山大学鹿田キャンパス　臨床講義棟　第 1 講義室（岡山市北区鹿田町 2-5-1）
4. 対 象 者　　どなたでも参加いただけます。
5. 参 加 費 用　　無料　※車でお越しの方には、駐車無料券をお渡しします。

＜内容＞

2013 年に日本で起きた風疹の大流行は国内のみならず海外でも取り上げられ、風疹ワクチンが不足する事態も発生し、大きな社会問題となりました。また風疹の大流行に伴って妊娠初期の妊婦が感染することで、生まれてくる赤ちゃんの目や耳、心臓などに障害が出る先天性風疹症候群（CRS）の子どもも増加。風疹感染を恐れた人工流産例も多く見られました。

厚生労働省、自治体によって風疹抗体検査の奨励や助成事業、予防啓発活動が行われ、ワクチン接種が進められてはいますが、抗体値の低い人も多く見られ、政府の目指す「2020 年までに風疹ゼロ」の目標には遠く及んでいません。

今回の公開セミナーでは、我が国のワクチン行政にも関与している小児科医をお招きして、乳児期から始まるワクチンの有効性や安全性についてのお話をお聞きします。また、先天性風疹症候群の子どもへの正しい理解を深めてもらうため、患者会［風疹をなくそうの会］『hand in hand』の

代表やメンバーの方々にもお越しいただき、それぞれのご体験をお聞きします。

＜補足＞

詳しい情報は、助産ネットのホームページをご参照ください。

URL: http://www.okayama-u.ac.jp/user/josan/

◆研究者からのひとこと

産婦人科医として、また産婦人科医会の母子保健担当として、県と連携して産後うつや乳幼児への虐待などの予防のため活動中。また、産婦人科における風疹無料抗体検査の推進などの活動も行っています。

岡山大学大学院保健学研究科
教授　中塚幹也

＜お問い合わせ＞
岡山大学大学院保健学研究科
「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム事務局
（電話番号・FAX）086-235-6538
（メール）　josan@cc.okayama-u.ac.jp

岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を支援しています。